

協働型ユーザーによる 地域スポーツ施設の運営管理モデル

藤崎達也

●要約

昨今の財政難からスポーツ施設の維持が困難となっている。そのため、地域でのスポーツは存続の危機にさらされていると言っても過言ではない。将来の選手育成や生涯スポーツを支えるために、行政や地域はどのように課題と向き合っていけば良いのだろうか。筆者は存続が厳しいスキー場運営のオルタナティブを探るために、2009年に北海道斜里町ウナベツスキー場でのスノーパークの設置・運営において「協働型ユーザーによるスポーツ施設の運営管理」を実証した。さらにこの手法を用いて2013年に稚内市こまどりスキー場にもスノーパークを設置し、地域ごとの特異性を加味した応用可能性についても実証的な検証を続けている。行政と市民・NPO等との協働は若林正秋⁽¹⁾をはじめ研究が盛んであるが、この論文では、筆者が二つの実証を通して見いだした「協働型ユーザーによる地域スポーツ施設の運営管理モデル」について説明し、全国の同様な課題を抱える施設への応用を提案するものである。

●キーワード

協働型ユーザー
スキー場運営
観光まちづくり
地域スポーツ